



コミュニティ・スクールだより

令和6年度 第1回宇部市地域学校協働活動研修会（報告）について

令和6年7月25日（木）、ときわ湖水ホールにて、第1回宇部市地域学校協働活動研修会を実施しました。研修内容は、2つの講話とグループ協議で、各小・中学校、地域から118名の皆さんが参加されました。アンケート結果では、90%以上の方から「参考になった」との回答をいただきました。今回は、2つの講話の概要を紹介します。

「地域との連携による特色ある学校づくり」 岬小学校 校長 水野 直樹 様
岬地区社会教育推進委員会 会長 高山 キヨエ 様

岬小学校は、市内で唯一、小学校の体育館とふれあいセンターを合築した施設です。岬小児童の体力の低迷と岬地区の健康づくりという課題がマッチし、社会教育推進委員会で協議され、令和5年度「みさき健康フェア・スポーツ・デイ参観日」の実施となりました。高山会長は、「会議の回数が増えましたが、学校に行くと児童が話し合ったり運動を楽しんだりする姿を見ていて、やる気になりました。」とお話しされました。



棒反応

当日は、保護者も健康フェアに参加し、3世代で「逃走中」や「50m走」、「上体起こし」、そして「骨密度」などの計測に取り組みました。中学生ボランティアの活躍や保護者・教職員・地域の交流等の成果も見られました。今年度はさらにバージョンアップされた活動が期待されます。

*学校と地域が同じ課題をもち同じ目標をめざす活動は、学校と地域がイコールパートナーとなった協働活動として大いに参考にしたいものです。

「地域学校協働活動による人づくりと地域づくり」
山陽小野田市教育委員会 学校教育課 スクールアドバイザー 中村 達実 様
(前埴生地域交流センター長)

埴生小中一貫校では、小中9年間の学びの「THE 埴生学」を学校地域連携カリキュラムに位置付け、継続実施されています。地域交流センター主催の「ふれあい文化祭」では、実行委員会に中学生が参画できるように中学校の下校時刻に合わせて開催しました。また、平日を含む複数日開催としたことで、授業として全児童生徒が展示作品を鑑賞することも可能となりました。



【ふれあい文化祭】

子どもにとっては、主体的な学びや地域の一員としての自覚と地域貢献意欲の向上等につながり、大人にとっては、子どもたちの発想が活動のヒント、生きがいやつながりづくり、多様な学びにつながっています。まさに、地域交流センターは、生涯学習や地域学校協働活動の推進、地域課題解決の拠点施設として、人づくり・つながりづくり・地域づくりの推進役を担っています。



一緒にね！

*生徒が参画するために学校と地域ができることを一緒に話し合い工夫した協働活動は、学校・地域づくりの一体的な推進の一つとして参考にしたいものです。